

第28回電波功績賞 「総務大臣表彰」「電波産業会代表理事表彰」受賞

2017年6月15日に開催された第28回電波功績賞表彰式において、3.5GHz LTE開発グループ（代表 河原 敏朗氏）が「FDD/TDDキャリアアグリゲーション技術を用いた超高速・大容量LTE-Advancedシステムの実用化」についてKDDI株式会社 FDD/TDD CA開発・実用化チームと連名で総務大臣表彰を、VoLTEローミング開発チーム（代表 杉山 一雄氏）が「VoLTEローミングの新方式確立による世界初実用化」について電波産業会代表理事表彰を受賞しました。

電波功績賞は、一般社団法人電波産業会（ARIB：Association of Radio Industries and Business）により、電波の有効利用に関する調査、研究、開発において画期的かつ具体的な成果をあげた者、あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に著しく貢献した者に対して授与されるものです。第28回となる今回の表彰では総務大臣表彰が3件、一般社団法人電波産業会代表理事表彰が6件受賞となりました。

総務大臣表彰の「FDD/TDDキャリアアグリゲーション技術を用いた超高速・大容量LTE-Advancedシステムの実用化」では、河原氏らがLTE-Advancedシステムとしてキャリアアグリゲーション技術を活用した高速・大容量化を実現するため、既存FDD帯のLTE技術とTDD帯のLTE技術もしくはWiMAX2+技術を組み合わせ、下り最大370Mbpsの高速通信サービスを実現するとともに、国際標準化にも寄与し、2016年春に国内でのサービス提供を開始する

など、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

中でもドコモの3.5GHz LTE開発グループでは、FDD/TDDキャリアアグリゲーション技術を用いた既存FDD帯のLTE技術と新たに割り当てられた3.5GHz帯のTDD帯のLTE技術との組合せに適用し、さらにこれまで培ってきた高度化C-RAN技術を駆使してより効果的にエリア展開が実現できるよう取り組みました。

電波産業会代表理事表彰の「VoLTEローミングの新方式確立による世界初実用化」では、杉山氏らがVoLTEにおける国際ローミングサービスを早期に提供するため、従来方式（LBO方式）と比較して、開発／試験に要する時間を短縮し、かつ、安価にサービス提供が可能となる新方式（S8HR方式）の開発、国際標準化を進め、2015年10月に新方式により、韓国との間で世界初の双方向（ローミングイン／アウト）での商用サービスを開始し、以後米国等へのサービス利用拡大を図るなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

